

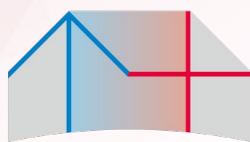
第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～
報告書

2024 年 10 月 12 日(土) 10:00～16:30

中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01) & オンライン



E P M E W S E

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

目次

男女共同参画学協会連絡会 第22期委員長挨拶	1
第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム	2
第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムフライヤー	4
午前の部	5
男女共同参画学協会連絡会 第22期幹事学会挨拶	6
第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 開催校挨拶	7
午前の部 講演概要	8
男女共同参画学協会連絡会 第22期活動報告	11
午後の部	12
来賓挨拶	13
趣旨説明	16
午後の部 講演概要・パネル討論概要	17
男女共同参画学協会連絡会 第23期幹事学会挨拶	23
男女共同参画学協会連絡会 第23期委員長挨拶	24
ポスター発表参加一覧	25
シンポジウム写真	26
第22期男女共同参画学協会連絡会シンポジウム担当・記録	29



第 22 期委員長 挨拶
(一般社団法人 日本応用数理学会)

いまい けいこ

今井 桂子

中央大学理工学部情報工学科 教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、幹事学会である一般社団法人日本応用数理学会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

連絡会では、理工系の女性研究者比率の低迷という現状を改善するために様々な活動をしております。そのような活動の一つとして、理工系に興味をもつ女子中高生を増やすため「女子中高生夏の学校(通称 夏学)」を開催してきました。そこで、本シンポジウムのテーマを「女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」としました。夏学は現在、NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトに主催を委ね、連絡会は中高生理系進路選択支援 WG を通じて協力しています。本シンポジウムの午前の部では、まず、夏学の現状について皆さんと情報共有したいと思います。

ポスターセッションを挟んで午後の部では、教育社会学の観点から教育におけるジェンダーの課題や、中高生向けの科学塾の運営から見えてきた気づき、また、当事者として体験した進路選択の現状についてお話を伺います。また、続くパネル討論では現役の学生も交え、次の世代の女子中高生が環境にとらわれずに自分の興味を伸ばせるような方策について議論し、連絡会としてどのような支援をすべきか、共に考える機会にしたいと思います。

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会は現在、正式加盟学協会 108 団体、オブザーバー 加盟学協会 10 団体、計 118 学協会で構成されており、今後さらなる広がりが見込まれます。幹事学会は 11 月から日本森林学会様に交代となります。引き続き、男女共同参画学協会連絡会の活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1980 年 津田塾大学学芸学部数学科卒業、1982 年 津田塾大学理学研究科修士課程数学専攻修了、1985 年 津田塾大学理学研究科博士後期課程数学専攻単位取得退学。理学博士。1985 年 東京大学工学部教務職員、1988 年 東京大学工学部助手、1988 年 九州工業大学情報科学センター助手、1990 年 津田塾大学学芸学部研究助手、1992 年 中央大学理工学部情報工学科助教授、1999 年 中央大学理工学部情報工学科教授。2017-2023 年 中央大学高等学校校長。2015 年 電子情報通信学会フェロー、2020 年 日本応用数理学会フェロー。



第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

【日時】 2024 年 10 月 12 日（土） 10:00～16:30

【形式】 中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01)&オンライン開催

【主催】 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（幹事学会：一般社団法人日本応用数理学会）

【後援】 内閣府 男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議、独立行政法人国立女性教育会館、一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、中央大学、特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

【参加費】 個人会員・一般：無料、学協会・大学等：7000 円(不課税)
(ポスター展示は別途 税込 3000 円)

【参加申込】 <https://forms.gle/uMBuGyRxidef1U8e8>

一般参加〆切：2024 年 10 月 4 日（金） ※一般の方はオンラインでご参加ください

【問い合わせ先】 連絡会 22 期事務局 (danjo_office22@djrenrakukai.org)

【目的】

男女共同参画学協会連絡会が設立されて今年で 22 年となりました。

連絡会の活動では、およそ 5 年ごとの科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模調査）の合同活動に加え、各学会においては委員会やワーキンググループが中心となり、学会員を対象としたさまざまな取組がなされてきました。現在、加盟学協会はオブザーバー学会を含め、118 となっており、今後さらなる広がりが見込まれます。一方で、多くの学協会では女性会員数の伸び悩みが懸念されています。その背景には、女子中高生が理系・文系の選択を行う時に、科学技術系に興味を持っていても理系を選びづらい事情があるのではないかと考えました。そこで、本シンポジウムでは女子中高生の進路選択、特に地方の課題に焦点をあて、女子中高生が自分の興味を伸ばせる環境構築の方策をみなさんとともに考えたいと思います。

本連絡会ではかねてから「女子中高生夏の学校（通称 夏学）」を開催してきました。現在は、NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトに主催を委ね、女子中高生進路選択支援 WG を通じて協力しています。そこで、まず本シンポジウムの午前の部では、夏学の現状について皆さんと情報共有をするとともに、本連絡会の第 22 期の全体の活動報告をさせていただきたいと思います。

ポスターセッションを挟んで午後の部では、教育社会学の観点から教育におけるジェンダーの課題や、中高生向けの科学塾の運営から見てきた気づき、また、当事者として体験した進路選択の現状についてお話を伺います。また、続くパネル討論では現役の学生も交え、次の世代の女子中高生が環境にとらわれずに自分の興味を伸ばせるような方策について議論します。連絡会としてどのような支援をすべきか、共に考える機会にしたいと思います。

■プログラム

【午前の部（10:00～11:30）】

開会挨拶 日本応用数理学会 会長 速水謙 氏

歓迎の挨拶 中央大学ダイバーシティセンター所長 中島康予 氏

「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて」

～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、女子中高生夏の学校（夏学）の20年～

講演：NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト 代表理事 永合由美子 氏

「連絡会活動報告」

第22期活動報告・WG活動報告・活動調査報告

【昼の部（11:30～13:00）】

ポスターセッション(昼食)

【午後の部（13:00～16:30）】

「女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」

ご来賓挨拶

内閣府男女共同参画局 局長 岡田恵子 氏

文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官 先崎卓歩 氏

趣旨説明

講演 13:15～15:20

講演1 「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

宮崎公立大学 人文学部 国際文化学科 准教授 寺町晋哉 氏

講演2 「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、
そして最近思うこと」

大阪公立大学 大学院理学研究科 物理学専攻 教授/

女子 STEAM 人材育成研究所(CYWSTEAM) 所長 細越裕子 氏

講演3 「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：
夏学での経験」

大阪大学 大学院医学系研究科 特任研究員/(株)リコー 朝井都 氏

休憩 15:20～15:30

パネル討論 15:30～16:20

パネリスト：午前・午後講演者（永合氏、寺町氏、細越氏、朝井氏）

お茶の水女子大学 教授 森義仁 氏（女子中高生理系進路選択支援 WG 委員長）

九州大学 修士課程1年 佐藤南帆 氏

ファシリテーター：大阪大学 教授 中口悦史 氏（連絡会第22期運営委員会 副委員長）

閉会挨拶 16:20～16:30

幹事学会からの挨拶 連絡会第22期運営委員会 委員長 今井桂子 氏

次期幹事学会からの挨拶 日本森林学会 佐藤宣子 氏

第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
女子中高生の進路選択
～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

【日時】2024年10月12日(土)10:00～16:30
【会場】中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01)
& オンライン
※一般の方はオンラインでご参加ください



申込みフォーム
一般参加締切10月4日(金)

【プログラム】
10:00～11:30

開会挨拶 速水謙(日本応用数理学会会長)
歓迎の挨拶 中島康予(中央大学ダイバーシティセンター所長)

講演「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて
～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、女子中高生夏の学校(夏学)の20年～」
永合由美子(NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表理事)

連絡会活動報告

11:30～13:00 ポスターセッション(昼食を含む)

13:00～16:30 女子中高生の進路選択
～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

来賓挨拶 岡田恵子(内閣府男女共同参画局 局長)
先崎卓歩(文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官)

講演1 「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

寺町晋哉(宮崎公立大学准教授)

講演2 「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、そして最近思うこと」

細越裕子(大阪公立大学教授/女子STEAM人材育成研究所所長)

講演3 「女子中高生理工系進路選択支援プログラムが与えた影響：夏学での経験」

朝井都(大阪大学特任研究員/(株)リコー)

パネル討論

パネリスト：永合由美子、寺町晋哉、細越裕子、朝井都、
森義仁(お茶の水女子大学教授/女子中高生理工系進路選択支援WG委員長)、
佐藤南帆(九州大学修士課程1年)

ファシリテーター：中口悦史(連絡会第22期運営委員会副委員長)

閉会挨拶

幹事学会からの挨拶 今井桂子(連絡会第22期運営委員会委員長)
次期幹事学会からの挨拶 佐藤宣子(日本森林学会)

【主催】一般社団法人男女共同参画学協会連絡会(幹事学会：一般社団法人日本応用数理学会)

【後援】内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、
国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議、独立行政法人国立女性教育会館、
一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、中央大学、
特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

講演・登壇者紹介



【午前の部】

開会挨拶

男女共同参画学協会連絡会 第22期幹事学会 会長 速水謙 氏

歓迎の挨拶

中央大学ダイバーシティセンター所長 中島康予 氏

講演概要

永合由美子 氏（NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表理事）

男女共同参画学協会連絡会活動報告

第22期活動報告・WG活動報告・活動調査報告



第 22 期幹事学会 挨拶
(一般社団法人 日本応用数理学会 会長)

はやみ けん

速水 謙

国立情報学研究所・総合研究大学院大学 名誉教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、幹事学会を務めている日本応用数理学会を代表してご挨拶申し上げます。当学会は、日本における応用数理的な研究、産業、教育等に関わる活動を支援し、ともに活動していくために、1990 年に発足しました。会員数は約 1400 名で、女性会員は約 90 名 (6.4%) です。

私事で恐縮ですが、8 月末にヘルシンキであったフィンランドと日本の応用数理のワークショップに参加する機会がありましたが、フィンランド側は発表者が 20 名中女性が 5 名 (25%)、日本側からは 28 名中 1 名でした。次の週はデンマーク工科大学の応用数学科で講演をさせていただく機会がありましたが、そこでも参加者の約 3 割が女性でした。また、多くの異なる国籍の方が参加されていて、その意味でも多様性を感じました。たまたま居合わせたイタリアの女性の教授に、「イタリアでは応用数理の分野で多くの女性の研究者が活躍されているようだが、それは学校で女子も数学を学ぶことを奨励されているからか？」と尋ねると、そのとおりだそうでした。

翻って我が国の、応用数理、数学の分野で活躍されている女性の研究者はいらっしゃいますが、もっといらっしゃってもいいように思います。その意味で本男女共同参画学協会連絡会、そして女子中高生夏の学校の働きは大変貴重なもので、今後とも益々充実して行われることを期待しています。

当学会でも 9 月の年会で託児施設を開設したり、キャリアデザインのためのランチミーティングを開催したりして関連した取り組みをおこなっています。また、当学会の佐古和恵先生と今井桂子先生のご意見を紹介させていただきますと、中高生、あるいは小学生の時からジェンダーバイアスにとられずに個人が自分の興味を広げられる環境を大人が提供することが重要で、そのために NPO 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトや女子中高生理系進路選択支援 WG の活動をこれからもみんなでサポートできるとよい。また、生徒のジェンダーバイアスを取り除くためには、周囲の大人の意識改革が必要で、それを大人がしなくてはいけない。特に、中高の教科において数学の面白さを知ってもらうにはどうすればよいのかを考えていますとのこと。よろしくお願いいたします。

略歴

1979 年 東京大学工学部計数工学科卒業、1981 年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程 (修士) 修了、1981-1993 年 日本電気株式会社研究所、1993-2000 年 東京大学計数工学科 助教授
2001-2021 年 国立情報学研究所 教授、2002-2021 年 総合研究大学院大学 教授。
2018 年 日本応用数理学会フェロー。2023 年-日本応用数理学会 会長



開催校挨拶

なかじま やすよ

中島 康予

学校法人中央大学常任理事、中央大学ダイバーシティセンター所長
中央大学法学部 教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを後援させていただく中央大学を代表してご挨拶申し上げます。本日、中央大学茗荷谷キャンパスにお越しいただいた方々にお礼を申し上げますとともに、幹事学会である一般社団法人・日本応用数理学会の皆様をはじめ、男女共同参画学協会連絡会の運営・活動にご尽力された全ての方々に敬意を表します。22 年の歴史を重ねてこられたシンポジウムが本学で開催されることを大変光栄に存じます。

中央大学では 2017 年 10 月に「中央大学ダイバーシティ宣言」を策定・公表し、この宣言を具現化するため、2020 年 4 月、中央大学ダイバーシティセンターを設置しました。130 年を超える歴史をもつ大規模私立大学であるにもかかわらず、組織的・体系的に身体障害学生を支援する組織、男女共同参画推進部署がなく、多様な国籍やエスニシティ、言語・宗教、ルーツ・出自などをもつ大学構成員を包摂する公平性・公正性という観点は希薄でした。このような状況のもと周回遅れでスタートしたセンターのコンセプトはインターセクショナリティ（交差性）です。「グローバル、多文化共生」、「ジェンダー・セクシュアリティ」、「障害学生等支援」の 3 領域を重点領域と設定し、一人一人の構成員の経験やアイデンティティの複合性・多様性をふまえ、個別ニーズにそった相談・支援を行なう一方、このようなニーズをもつ構成員が、あたかも存在しないかのような前提の社会をつくり出す制度・構造、権力関係の問題に切り込むには、領域横断的な連携・連帯が鍵を握るとの認識にたち、環境整備を行なハブとしてセンターを設置することにしました。目下のところセンターの活動の主軸を学生支援に置いており、「女子中高生の進路選択」というシンポジウムのテーマのもと得られた知見・成果を本学の取りくみにいかしてまいります。本日のシンポジウムが日本社会のジェンダー平等実現につながることを願い、実り多いものになりますよう、心よりお祈りいたします。

略歴

1983 年中央大学法学部法律学科卒業。1989 年中央大学大学院法学研究科博士後期課程（政治学専攻）退学。中央大学法学部助手・助教授を経て、2000 年から中央大法学部教授。専門は政治学・現代政治理論。中央大学法学部長などを務め、2023 年 6 月から学校法人中央大学常任理事（総務担当）・中央大学ダイバーシティセンター所長。

講演

「多様なロールモデルとの出会いがアンコンシャスバイアスを超える
～男女共同参画学協会連絡会に支えられた女子中高生夏の学校(夏学)の 20 年～」

永合 由美子 氏

NPO 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト 代表理事

◆日本の現状と課題の共有

日本では男女格差がうまらない状況である。毎年 6 月に発表されるジェンダーギャップ指数(GGI)の日本の順位は、今年 146 カ国中 118 位である。順位が低いことも問題だが、他国が年々GGIを改善しているのに対し、日本のそれは横ばいであることを危惧している。経済分野、政治分野のスコアが特に低い。高等教育を受けた人への経済的リターンをみると、男性は OECD 平均とほぼ同じ状況であるのに、女性は低い。日本の就労環境として女性は非正規雇用が多く、役員の比率が低いためである。理工系女子学生の割合は少しずつ上がっているが、ドラスティックな変化がない。諸外国では男女比 50:50 になっている国、女性の比率が高い国もあるのに対し、日本では低い数字が続いている。これについては、能力の問題ではなく男女平等意識の低さが問題であると報告されている。日本の女性のリテラシーが高いことは裏打ちされている。しかし、難しい数学のテストを受ける前に、「男女差なし」と聞くと男女ほぼ同じスコアになるのに対し、「男女差あり」と聞くと女性のスコアが低くなることが知られている。無意識のプレッシャーで脳内のワーキングメモリが使われてしまい実力を発揮できなくなると解説されている。できないと思うと本当にできなくなってしまう。普段、男女差のある認識のもとで過ごしていることが背景にある。潜在的にもっているバイアス(偏見)(アンコンシャスバイアス、無意識のうちに脳に刻まれた固定観念・既成観念)が影響していると考えている。アンコンシャスバイアスは性別だけでなく人種、宗教、年齢、民族、多岐に渡り 200 種類あると言われている。アンコンシャスバイアスをなくすことは難しいが、再生産を防ぐこと、克服することは可能と考えている。女性の数を確保する、「自分はできる」とマインドセットしていく、身近なロールモデルの存在で現状を変えることができる。私たちは環境を変える努力をするべきである。そのために、中高生が仲間と出会い、多様なロールモデルに触れる場として夏学を続けている。

◆女子中高生夏の学校

夏の学校には女子中高生向けプログラムと保護者・教員向けプログラムがあった。現在はリソースの問題で保護者・教員向けプログラムは取り組めていない。しかしこの活動も重要なので協力しながら継続していきたい。女子中高生向けプログラムの目的は、理工系キャリアについて知識を得た上で、自らの意思で進路を選択できるようになることである。必ずしも理工系を選ばなくてもよい。選択の幅を広げずに理系を選択から外している女子生徒に

理工系進路の先に広がる多様なキャリアパス、生き生きと働くロールモデルを提示し、自分のキャリアについて体験し考え発信してもらうことを目指している。保護者や教員には理系進学についての理解者、支援者になってほしい。首都圏外では、理系に進路選択すると就職先はあるのか、結婚できるのかといった質問が挙がる。女子中高生の進路相談先は母親である。母親の理解促進、支援者になってもらうことが重要である。

夏学は、理系進路選択支援活動の一環として 2005 年に高校生を対象として始まった。翌年には中学 3 年生にも広げられた。以降、毎年 8 月に実施している。夏学成果の外部発信も努めている。男女共同参画学協会連絡会からの支援が絶えずあった。2017 年は、JST の受託を受けて、国立女性教育会館が運営の大部分を担っていた。男女共同参画学協会連絡会から講師を派遣し、タッグを組んで主催していた。2018 年以降 JST の支援がなくなり、NPO を設立し、外部助成団体や企業からの寄付を受けて活動している。ここでも男女共同参画学協会連絡会の強力なバックアップがあった。

2018 年に設立した NPO 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトは、所在地を日本女子会館に置き、現在正会員 26 名、賛助団体・学会、賛助個人 5 名からなる多様な団体である。研究者や技術者が幅広い分野の科学や技術の魅力を伝え、交流を通して、女子中高生自らが理工系キャリアパスを具体的に描くことをミッションとしている。柱となる 3 事業は、教育、人材育成、情報交流である。

(夏学の活動紹介動画を見ながら) キャリア講演では先輩の話を聴き、多様性を学ぶ。中高生は積極的に質問する。様々な実験実習があり、今年も 18 の実験実習を提供できた。学協会連絡会の協力のおかげである。ポスター展示、キャリアブースには 40 ブース(48 団体)の協力があった。中高生は自分たちで気づいたこと、将来のタイムラインを描いていく。YouTube にも動画があるので見てほしい。

夏学のプログラムの構成として、科学とふれあう、人とつながる、将来を考えるの 3 段階で構成されている。情報を得る→体験し考える→感じたことを表現し共有する。キャリア講演、実験実習、学生企画のプログラムが、生徒の成長に寄り添うように組まれている。男女共同参画学協会連絡会とのパートナーシップ、様々な人材の協力がこれらの取り組みを支えている。特徴的なのは、学生企画を中心に据えた中高生向けプログラム、多様なロールモデルの提示、中高生自身のアウトプットと周囲の応援である。学生企画プログラムでは、アイスブレイク、深いコミュニケーション、将来の可視化を通して自分の未来を描く。過去には大キャリア相談会という大学生と中高生が話をする企画もあった。

夏学だけで終わらないように努めている。夏学卒業生が大学生 TA として協力、就職してからも実行委員として協力してくれる循環もある。就職先に夏学への賛助を働きかけてくれた例もあった。「女子中高生を対象とした理科実験プログラムは多いが、夏学への参加を推奨している。中高生が大学生・大学院生との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、再確認し、理系に進もうという意思を高めるといった目標を参加した生徒いずれもが達成している。」といった参加者(学校の先生)からの声があった。中高生参加者は 8~9 割が「とても満

足」、1割は「満足」と回答している。「将来自分が働いている姿をイメージがわく」、「理工系選択への不安は解消された」、「理工系の仕事に就きたい」と明確に答える生徒が増えた。

「理科は得意か」という質問に対し、2泊3日の合宿後に得意だと答える生徒が増える。これは「素直に得意と言っていい」という気持ちが芽生えるのではないか。自己肯定感があがったのではないか。アンケート自由意見(2024)では、多くの参加者が「楽しい」と答えている。他に「興味深い話を聞いた」、「理系進路の幅は思ったより広がった」、「新しい発見や人脈、いろんな視点があった」と答えている。夏学の効果としては、コンテンツの影響が大きい。キャリア形成の支援に重点を置き、最先端科学に触れ、同じ立場の友達と交流することがキャリア意識にポジティブな影響を与えている。

◆課題と今後

理工系進路を迷う生徒へアプローチが届いていない。夏学応募者は定員の2倍あるが、このような企画に関心のある生徒にしか届いていない。そのため地方への1日デリバリー企画に注力している。Web・オンライン企画の併用は地方在住の参加者には効果的である。対面の良さもあるが、オンラインでしか参加できない生徒のために企画を充実していきたい。保護者・教員へのアプローチも必要である所以他団体と連携してやっていく。地方での1日デリバリー企画は、ロータリークラブや大学と協力し、2泊3日の夏学のエッセンスを1日にまとめて提供している。首都圏外へのさらなる展開、オンライン企画の充実、アプローチできていない層へリーチしていきたいと考えている。

(記録：日本応用数理学会 石田祥子・森山園子)

調査報告：2024 年加盟学協会の活動調査

神山 雅子（日本応用数理学会）

1. 調査概要

内容：加盟学協会を対象に男女共同参画に関する活動状況を調査。

方法：web サイトにアンケートを設置。加盟学協会 1 につき回答 1 件。

回答数：80 学協会。

頻度：2 年ごと。

2024 年の実施学会：日本応用数理学会（2024 年 幹事学会）。

2. 調査結果の概要

加盟学協会の関心：男女共同参画に関する他学会の動向に高い関心。

男女共同参画委員会の設置状況：2008 年から 80%前後で安定(図 1)

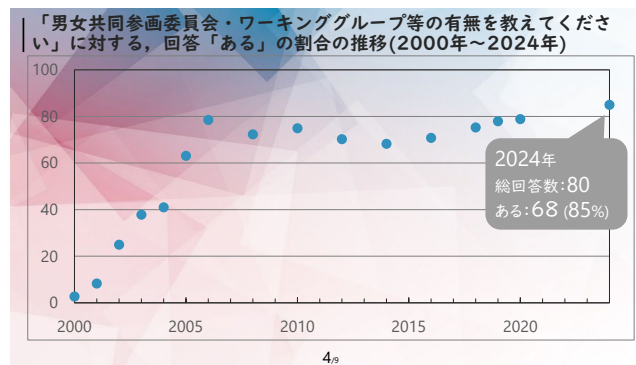


図 1 アンケートにおける男女共同参画委員会の設置割合

連絡会の運営：幹事学会を引き受けることに対し、リソースに不安を感じる学協会が多い(図 2)。自由記述では、リソース不足の不安と共に運営の外注を提案する回答も見られた(図 3)

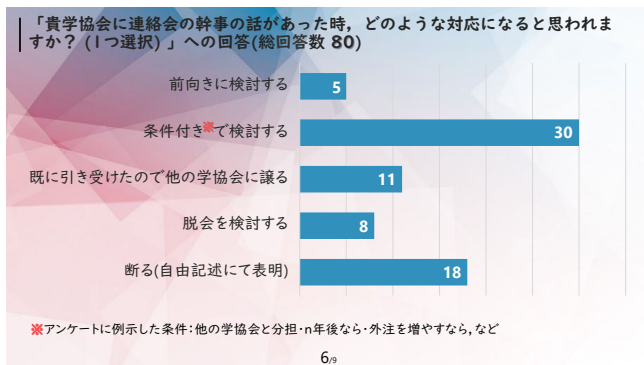


図 2 幹事依頼に対する対応(予測)

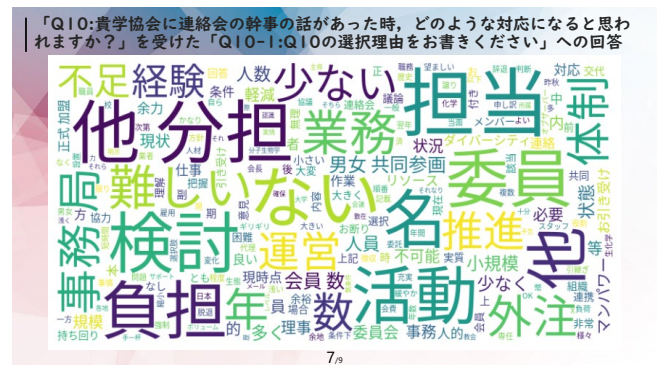


図 3 幹事依頼に対する自由記述(ワードクラウド)

3. アンケート集計担当者の所見

アンケートの回答と学協会との会員数とに明確な相関が発見できなかった。

講演・登壇者紹介

【午後の部】

「女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」

ご来賓挨拶

内閣府男女共同参画局 局長 岡田恵子 氏

文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官 先崎卓歩 氏

講演概要

寺町晋哉 氏（宮崎公立大学准教授）

細越裕子 氏（大阪公立大学教授/女子 STEAM 人材育成研究所所長）

朝井都 氏（大阪大学大学院医学系研究科 特任研究員/（株）リコー）

パネル討論概要

午前・午後講演者（永合氏，寺町氏，細越氏，朝井氏）

森義仁 氏（お茶の水女子大学 教授/女子中高生理系進路選択支援 WG 委員長）

佐藤南帆 氏（九州大学修士課程 1 年）

ファシリテーター 中口悦史 氏（大阪大学教授/第 22 期運営委員会副委員長）

来賓挨拶

岡田 恵子 氏

内閣府男女共同参画局 局長

内閣府の男女共同参画局長の岡田でございます。この度は第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが開催されますことを心よりお喜び申し上げます。本日までご参加の皆様がそれぞれのお立場で、科学技術分野における男女共同参画の推進に取り組んでいただいていることに感謝申し上げますとともに、第 22 期の幹事学会、日本応用数理学会の皆様をはじめ貴連絡会の全ての方々のご尽力に敬意を表します。

日本の科学技術分野における研究者に占める女性の割合は諸外国に比較して低い現状にあります。特に自然科学系、工学系への女性の進学者の割合が低くなっているという現状がありますことから、そうした分野における男女共同参画をより一層推進していく必要があると考えております。

こうした中で、今回のシンポジウムが女子中高生の進路選択、特に地方の課題に焦点を当て女子中高生が自分の興味を伸ばせる環境構築の方策についてともに考える機会となりますことは、大きな意義があると考えております。政府といたしましては、女性活躍推進に資する様々な情報の普及を行いますとともに女性活躍・男女共同参画推進のリーダーや担い手の育成、専門性の向上など人材の育成を軸とした取り組みを進めることなどにより、あらゆる分野における政策方針決定過程に女性が参画する機会の確保に取り組むとともに、あらゆる分野において、男女共同参画の視点に立った政策が実現されるよう、本年 6 月 11 日に女性版骨太の方針 2024 を策定いたしました。この女性版骨太の方針 2024 では、科学技術・学術分野における女性活躍を推進するということをかかげ、具体的には、若手のロールモデルによる授業の実施手順の事例などを示したプログラムを作成、周知することによりまして、各地域の大学や高専における理工系の魅力を発信する機会の増加や全国各地の教育委員会や男女共同参画センターと連携した初等中等教育段階からの児童・生徒・保護者・教員を含めた理系分野の進路選択を促進する意識啓発の推進、また進路選択の支援となる職業における将来の具体的な活躍イメージを持つことができるロールモデルの提示などの取り組みについて女子生徒、学生への広報や周知の強化などに取り組むこととしております。

関係省庁においても理工系分野への進学者増に向けた取り組みの推進や大学等における女性登用の促進等を図ることとしており、政府一体となって科学技術・学術分野への進学者等や女性登用を進めることとしております。

ここで内閣府男女共同参画局における理工系分野に係る取り組みについても紹介させていただきます。私どもの局では女子中高生等が理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をイメージして進路選択することを応援するため、理工系分野の進路の魅力や理工系分野

のキャリアに関する情報発信などを行う取り組みを、理工チャレンジ、略して「リコチャレ」として推進しております。特に毎年夏休みの時期には文部科学省、一般社団法人日本経済団体連合会と協力し、夏の「リコチャレ」として取り組みに賛同する全国の企業や大学、自治体などの団体が多くイベントを開催するキャンペーンを実施しております。今年の夏の「リコチャレ」ですけれども、119 団体により 228 のイベントが開催され、昨年よりさらに多くの約 6,800 名以上の女子中高生の方が理工系進路に触れる機会を作ることができました。また企業の最前線で活躍されている女性の方が理工系の力を伝え女子中高生、女子学生の理工系選択を応援する理工系ガールアンバサダーの取り組みも行っております。

さらに人口 5 万人未満の地域における当該地域の若手ロールモデルの方による出前事業につきましても対象地域を拡充するなど女性の理工系分野の進路選択をする取り組みを充実してきております。内閣府としましては今後も関係省庁と連携してこうした女子中高生等に対する理工系分野の進路選択の支援を進めるとともに、科学技術・学術分野における女性の参画拡大や女性研究者・技術者の通訳できる環境の整備などにより、理工系女性人材の裾野の拡大と女性の登用の促進を進めてまいります。

最後となりますが、本日ご参加の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げまして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(記録：日本森林学会 佐藤宣子)

来賓挨拶

先崎 卓歩 氏

文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官

文部科学省科学技術学術政策局の先崎でございます。本シンポジウム開催にあたり、文部科学省からも一言ご挨拶申し上げたいと思います。皆様におかれましては、日頃より科学技術の分野で、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境作りなどにご尽力をいただき、感謝申し上げます。我が国が今後も成長を続けていく上で、理工系分野の専門性を持った女性を育成していくことは大変重要な課題であると認識しています。政府の下に設けられた教育未来創造会議の第一次提言、我が国が未来を牽引する大学と社会のあり方におきましては、大学学部学生の理工系学部への入学者の女性比率は7%であり、OECD 諸国平均の15%に比べても大幅に低い状況にあるとも指摘がなされております。

こうした背景から、理工系学部を専攻する女性が増加する取り組みを始めとして、あらゆる分野で女性が自らの能力を発揮できる社会を産学官が一体となって作り上げていくことが提言されました。文部科学省としては、初等中等教育段階において、女子中高生の理工系分野への興味・関心を高め、アンコンシャスバイアスを払拭し、適切な理工系進路の選択を可能にするため、女子中高生の理系進路選択支援プログラムとして地域や企業と連携し、女子中高生と研究者等の交流機会の提供、シンポジウムや出前授業などを実施する大学等を支援しています。

社会におけるジェンダーバランスの適正化が求められる中、自らの意思に基づき、個性と能力を発揮できる理工系分野の女性活躍の推進は、多様な視点や優れた発想を取り入れ、我が国の科学技術イノベーションを発展させるために不可欠であります。そのような中、男女共同参画学協会連絡会が、本日のシンポジウムをはじめとした様々な活動において、男女共同参画を推進されていることは、我が国の科学技術イノベーションの発展において大変意義があるものと考えております。

文部科学省といたしましては引き続き、女子児童・生徒・保護者および教員に対し理工系選択のメリットに関する意識啓発や、理工系出身者のキャリアに関する理解を促すための環境整備を積極的に進めてまいりたいと考えておりますので、皆様も引き続きのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また本日のシンポジウムを契機に、知見やノウハウの共有が図られ各機関、各分野における取り組みの一層の充実が図られますよう強く、ご期待申し上げます。結びに、本シンポジウムの開催にあたり、関係者の皆様のご尽力に改めて敬意を表しますとともに、このシンポジウムが実り多きものとなることを祈念いたしまして、文部科学省からの挨拶とさせていただきます。

(記録：日本森林学会 佐藤宣子)

趣旨説明

22 期副委員長 早稲田大学 佐古和恵

本シンポジウムでは女子中高生の進路選択、特に地方の課題に焦点をあて、女子中高生が自分の興味を伸ばせる環境構築の方策をみなさんとともに考えたいと思います。本連絡会ではかねてから「女子中高生夏の学校（通称夏学）」を開催してきました。現在は、NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトに主催を委ね、女子中高生理系進路選択支援 WG を通じて協力しています。そこで、まず本シンポジウムの午前の部では、夏学の現状について皆さんと情報共有をするとともに、本連絡会の第 22 期の全体の活動報告をさせていただきたいと思います。ポスターセッションを挟んで午後の部では、教育社会学の観点から教育におけるジェンダーの課題や、中高生向けの科学塾の運営から見てきた気づき、また、当事者として体験した進路選択の現状についてお話を伺います。また、続くパネル討論では現役の学生も交え、次の世代の女子中高生が環境にとらわれずに自分の興味を伸ばせるような方策について議論します。連絡会としてどのような支援をすべきか、共に考える機会にしたいと思います。

（シンポジウム 案内文より転載）

講演 1

「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

寺町 晋哉 氏

宮崎公立大学 人文学部国際文化学科 准教授

これまでの調査結果によると、理数科目に男女差は確認できない。一方、社会的には「男子は理系」というステレオタイプ的な見方が優勢であり、「女の子なのに算数（数学）や理科が得意だなんてすごいね」とたった一度の発言でも、女子の意欲は下がってしまう。そうした周囲の反応に日々さらされていくと、女子自身も理数科目に苦手意識を無意識に持つようになり、女子生徒は自身の学力に見合わない低い自己評価をするようになり、女子の方が、自分の実力より低い大学を選んでしまう傾向がある。

学校では性別を意識するものが些細なものも含めてたくさんある。また、小学校から理科の魅力を伝える教師や理数科目を教える女性教師が少ない。理数科目に関わるところでロールモデルがいないし、理数系教科に関わるような仕事をイメージできない実態がある。そもそも幼稚園や小学校の先生の多くは文系意識を持っている。幼少期に出会う先生達が理科とか算数とかをあまり得意じゃない、ということが女子の選択に影響を与えているのかもしれない。

ほとんどの都道府県で男子の方が四年制大学の進学率が高い。どうせ結婚する、どうせ子供ができたら仕事を辞める、それなら無理に四年制大学に行かなくてもいいのでないか、と女子だけ言われたりする。そこで理数系志望を表明しようものなら、女子なのに理系？と言われる。このように、女子だけいろんなハードルが目の前に現れる。特に地方の女子は不利益を被りやすい。女子は大学進学にあたり、明確な意思を求められる（多少の周囲の反対があっても、それを乗り越えていく明確な意思）。こうしたハードルを越えていく必要がある。女子が理系意識を持ちづらくすることを変革していく必要がある。

これからは、能力について男女差はほとんどないと、周囲の大人（先生など）が伝えることが大事だと思う。教材についても、男子目線になっていないか見直してみることも必要で、女子が興味を持ちやすいような説明例の提示なども有効かもしれない。

（記録：日本森林学会 村上拓彦）

講演 2

『『女子中高生のための関西科学塾』の 19 年、そして最近思うこと』

細越 裕子 氏

大阪公立大学大学院理学研究科 物理学専攻 教授
女子 STEAM 人材育成研究所(CYWSTEAM) 所長

「女子中高生のための関西科学塾」は、関西圏の国公立 5 大学の連携事業であり、神戸大学、大阪大学、奈良女子大学、京都大学、大阪公立大学によって運営されている。女子中高生へ直接の働きかけを行っている。国際的にみても理工学分野への進学率は極端に低く、女性比率は理学 28%、工学 16%である。能力の国際比較では日本女子はアメリカ男子より高いし、国内でも男女差はない。関西科学塾では志を同じくする仲間がいることを知る機会を提供している。プレゼンテーションを通して科学に能動的に関わる。関西科学塾のきっかけは 2005 年夏学である。関西でも同様のものをやろう、ということになり、当初は一泊二日で実験や発表を行っていた。

過去の参加者へのアンケートでは回答者の 8 割が理系に進学していた。理系にいろんな分野があることを知って、多様な理系進路選択をすることができたという評価を得ている。

コロナ禍ではオンラインで実施した。実験キットを事前に送るなどして対応した。参加者アンケートによると、オンライン科学塾の満足度は高かった。オンライン実験実習は合宿なしであったが、思いのほか好評であった。サイエンスで世界とつながろう、という英語でコミュニケーションをとる企画も行った。学年混合 5 人チームで Museum Walk Activity と言われる形式で行った。20 年間の取り組みを振り返ると、数字の上では微増である。大学院への進学率は確実に増えており、理系の分野で働きたいという意識があることを確認している。

保護者プログラムを行っており、保護者懇談会は出席者も多い。理工学分野の男女比は、欧米では 2010 年台には男女半々が達成されていることもあり、大学の理系学部の男女比が半々になるまで活動が必要であると個人的には考えている。

(記録：日本森林学会 村上拓彦)

講演 3

「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：夏学での経験」

朝井 都 氏

大阪大学大学院医学系研究科 特任研究員

(株)リコー

夏学を体験して感じたこと、夏学が自身の進路選択にどんな影響を与えたのかを紹介したい。子供の時の背景として、少人数の小学校に通っていた。地域の雰囲気として理系の仕事への解像度の低さ、身近に理系の大人がおらず「学んだその先」が想像できない環境であった。中高一貫校に高校から入学した。周囲は志望大学・学部を決めていた。高校一年生の時に夏学と出会った。「理系」の世界がひろがった3日間で、自分の研究や仕事を楽しそうに話す大人達のキラキラした姿が印象的であった。高校二年生は2回目の夏学であった。進路をより具体化し、自信が持てたワークショップであった。自分の描く進路を肯定してくれた先輩、仲間がいた。

その後、大学に入り、夏学にTAとして参加した。女子の友達ができた嬉しさ、相談できる先輩がいることの心強さを感じた。修士に進むかどうか迷った際「人生の長さと比較して2年は短いよ」とのアドバイスがあった。大学院では学会、企業を知る機会を得た。夏学の「応援する文化」を見えるかたちにしたいと思うようになった。ものをつくる仕事がしたい、ソフト系研究開発職を希望するようになった。夏学の活動をポジティブにとらえてくれる企業を選びたいと思い、現在の会社を選んだ。

夏学との出会いについてまとめると、参加者としての自分に、理系の世界を広げ、進路を見つけるためのヒントを与えてくれた。夏学であこがれや目標を見つけることができ、自分の進路に自信が持てた。運営側として関わって、多様な進路を知ることができた。自分は何がしたいのか？を考えることができた。夏学で得たものをヒントに必要な情報を手に入れることができた。

(記録：日本森林学会 村上拓彦)

パネル討論

パネリスト：永合由美子氏、寺町晋哉氏、細越裕子氏、朝井都氏、森義仁氏、佐藤南帆氏
ファシリテーター：中口悦史氏（第 22 期副委員長）

パネル討論は、講演者であった永合由美子氏（特定非営利活動法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表理事）、寺町晋哉氏（宮崎公立大学准教授）、細越裕子氏（大阪公立大学教授／女子 STEAM 人材育成研究所所長）、朝井都氏（大阪大学大学院医学研究科特任研究員／(株)リコー）に加えて、森義仁氏（お茶の水女子大学理学部教授／同大学こども園長）、佐藤南帆氏（九州大学大学院総合理工学府修士課程 1 年）をパネリストに迎え、中口悦史氏（第 22 期副委員長／大阪大学スチューデント・ライフサイクルサポートセンター教授）をファシリテーターとして実施された。永合氏と森氏が夏の学校、朝井氏が関西科学塾の運営者の立場、朝井氏と佐藤氏が参加者の立場、寺町氏が教育社会学の研究者の立場からという構成で、ファシリテーターの中口氏も運営や参加の経験を有するというメンバーで多角的な議論がなされた。主に、夏の学校の経験を広げ、女子中高生が大学進学で理系を選択しやすくするために、第一に高校教師の役割と参画、第二に教育委員会との連携、第三に地方圏に住む女子中高生へのアプローチについて活発な議論がなされた。

第一の高校教師の役割と参画に関する議論は、抽象度が上がってからの数学の面白さを生徒に伝えうる先生と繋がるにはどうしたらよいのか、高校生個別へのアプローチだけではなく教師へのアプローチが必要という点から展開された。寺町氏から、以前の教師は、数学や理科が好きで大学で研究する人が高校教師になる場合もあり面白さを教えていたが、最近は、学校で教えるための教員を養成するようになっており、受験のために必要なことしか教えない傾向があるが、理科教育学会など、問題意識を持った現場教師も加入している学会との連携なども必要ではないかとの指摘があった。また、応用物理学会では、リフレッシュ・理科教育を各支部単位で長年続けていること、その蓄積と地方大学の先生方を中心に、高校の先生、また教育委員会とも連携していることが紹介された。大学学生組織で活動する佐藤氏からは、知りあいの先生や担任だった先生に直接連絡すると、前向きに反応してくれたこと、夏学の場合は、参加者だった高校生が、その後 TA として運営側に回っており、それは夏学がとても高い満足感があるためであり、高校生が先生へ、また先輩から後輩に伝えたらよいと思うとの感想が述べられた。

細越氏からは、中学や高校で「将来の夢」を話し合っても、医者や弁護士はわかるが、医学部以外の理系職のイメージがわからないというのは、男女を問わない問題であり、物理はあらゆる職種に必要であることを知らせる機会が必要との意見が出された。

さらに、高校教師の中でも、進路指導の教師が大きな影響力を持っていることも議論がなされた。オンライン参加者からは「女子は工学系ではなく農学系へ」といった進路指導がなされた例も紹介された。教師自身が理系選択後の職業をイメージできていないため、それを

伝える必要があるものの、伝えることができてもその後、異動する場合が多く継続しないといった悩みもあること、そうした中で民間の人や保護者が関係してキャリアの多様性を示していく必要があるといった提案があった。また、朝井氏からは、高校生にとって、学校の先生は進路選択にとってウェイトが高いが、その先生のことを聞くだけが選択肢ではないということを保護者が知っているといいかもしれないという指摘もあった。

第二の教育委員会との連携に関する議論では、永合氏から、「夏の学校はすべての教育委員会にアナウンスをしているが、ほとんど対応してもらえない、繋がるための方法はないか」、という問いから始まった。その背景には、女子学生限定の事業には教育委員会として取り組むのが難しいことがあるとの指摘も複数からあった。これに対して、教育委員会は出向した教員が主事であるため、まずは知り合いの伝手を辿ってアプローチしたこと、また、会場から福井県教育委員会と協働して実施している「ふくい Girls 未来のテックリーダー」プロジェクトが紹介された。福井県では、県立高校の女子生徒を 2 泊 3 日で東京に招き、最先端の IT 企業や研究機関を訪問し、その後、福井県内の企業訪問を行うというものである。教育委員会は、女子向けと限定すると取り組めないといわれることが多いが、福井県の場合、女子の理系選択が重要というのを何度か言うと、理解してもらえたとのことであった。また、政府文書である「女性版骨太の方針 2024」に、教育委員会や男女共同参画部署と協力して女子高生の理系選択を進めるということが記載されたため、政府もそれを進めているという点を主張すると教育委員会も取り組みやすいのではないかと指摘があった。

第三に、地方圏での女子高校生の理系選択の難しさについて議論された。種子島出身の佐藤氏からは、講演で「好きだけでは選びにくい」、「理系進路の見えにくさ」、「大学進学に明確な意志を求められる」と言語化されたことに納得したという発言があった。地元の友人の親などから、「理系で、大学院まで行って、将来何になるの?」とよく聞かれるが、理系が好きだけでは答えにくい。種子島は高校までしかいないため、大学の先生はもちろん、大学生や企業人とも話す機会がないこと。その中で、夏学への参加は、新鮮で、理系に行って何になるではなく、理系でこんなにきらきらした大人がいることを知れただけでも選択が広がるのではという発言があった。一方で、地域再生にも興味があり、島の人口減をどうしたらよいかという課題にも興味があるとのことであった。

地方都市である愛知県瀬戸市出身の朝井氏からは、地元をでない大人が多く、女子が大学に行く価値があるのかとまで言われる地域であり、どここの大学に行ったなどの情報は地元内で関心をもたれ息苦しい地方都市の現状の紹介もあった。

地方圏でのこうした現状に対して、寺町氏からは、勤務地の宮崎では、賢くなったら町を捨てる、だから子供に勉強を教えたら、地元にいなくなるので困ると言われる場面も多くあり、子供の人生選択の自由とその地域を維持したいという天秤で話されると、答えるのが非常に難しく、考えていくべき問題は多いこと。しかし、そうであっても、地方に住んでいる女子が大学に行けないとか、女子だから理工系に行けないというのは改善すべきであり、難しい問題だと思っているとのことであった。

以上の三つの議論の他にも、森氏からは、自然現象に対する感度が高い幼稚園教諭や保育士に面白い遊び（実験）を伝えることの重要性、小学校低学年までの体験の量が抽象度の上がる中高生の理科を面白くするために重要であることが、お茶の水附属幼稚園の経験から話題提供があった。また、会場から、企業が実施主体となっている児童館はアプローチしやすいとの紹介もあった。細越氏からは、面白いという点は大事で、小学生までは面白いことに反応してくれるが、中学生になると、面白くても誰も手をあげなくなる。中学校教育を抜本的に変える必要があるのではという問題提起もあった。

さらに、討論時に会場やオンラインから、寺町氏の講演に対する質問が多くあった。①「徳島県の女子進学率の高さの理由」、②「高校から進学実績がない大学への進学することは、進学指導が影響しているのではないか」、③「数学の試験でよい点数をとると『女子なのにすごいね』という意欲が下がると講演で指摘されたが、その下がった意欲は回復するのか？」などである。これについて、寺町氏からは、①③の回答となる研究はほとんどなく、回答できないものの重要な視点であること、②については、入学した高校の難易度によって、その先の大学の進路がトラップされているという研究は多く、偏差値が高い高校に行くと大学進学は当然という空間ができて、その後の進路がある程度きまってしまうという点は、教育心理学では定説になっていることが紹介された。

以上紹介してきたように、約 1 時間という限られた時間であったものの活発な議論がなされ、参考になる取組が紹介されるとともに、残された課題も浮き彫りになった討論であった。

（記録：日本森林学会 佐藤宣子）



第 23 期幹事学会 挨拶
(一般社団法人 日本森林学会 会長)

まさき たかし

正木 隆

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 研究リスク管理監

ご挨拶

日本森林学会の会長を務めております正木隆と申します。男女共同参画学協会連絡会の次期幹事学会は、当学会がお引き受けすることとなりました。そのため2023年に臨時委員会を組織し、当時副会長だった私が委員会の会長を務めました。その後、2024年5月の総会で私が会長に選任され、同時に佐藤宜子氏がダイバシティー担当理事となりました。そこで佐藤氏に臨時委員会の会長をバトンタッチして組織体制を1本化し、幹事学会に臨むことといたしました。男女共同参画学協会連絡会の活動と発展に全力で貢献していく所存です。

科学技術は近代日本の発展の礎でした。日本はこれから人口が減少していきますが、だからこそ、科学技術の発展を停滞させることは日本の将来を大きく脅かします。男女の区別なく、多くの人材が科学技術分野に携わることが不可欠となります。しかし、大規模アンケートの結果をみても、日本において女性研究者が活躍する環境は依然として不十分であり、日本の将来に暗い影を落としています。この状況を打破し、改善し、女性研究者を増やすことは国家的な急務と言えるでしょう。

当学会は男女共同参画学協会連絡会での活動を通じて、日本の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

1964 年、東京生まれ。1988 年に東京大学農学部を卒業し、1993 年、東京大学大学院農学系研究科を修了（博士（農学））、同年、森林総合研究所に入所した。その後、主に森林総合研究所においてキャリアを積み重ねる一方、農林水産省農林水産技術会議事務局の研究調査官、山梨県森林総合研究所の客員研究員、筑波大学連携大学院の教授などを歴任した。専門は造林学・森林生態学、およびそれらに基づく森林施業論。100 を超える原著論文のほか、「森林づくりの原理・原則」（単著・全林協）、「森林生態学」（編著・共立出版）、「森の芽生えの生態学」（編著・文一総合）、「図説日本の森林」（編著・朝倉書店）などの教科書や一般書を発表してきた。



第 23 期委員長 挨拶
(一般社団法人 日本森林学会)

さとう のぶこ

佐藤 宣子

日本森林学会 ダイバーシティ担当理事
九州大学大学院農学研究院 教授

ご挨拶

次期の男女共同参画学協会連絡会の幹事学会をお引き受けしました日本森林学会のダイバーシティ担当理事の佐藤宣子と申します。これまで連絡会の活動についてほとんど存じ上げないまま、会長の重責をお引き受けすることになりました。少々心配ですが、まずは連絡会の歴史と大規模アンケートの結果をしっかりと勉強したいと思います。日本森林学会では、通常のダイバーシティ担当のメンバーの他に、男女共同参画学協会連絡会幹事対応委員会を立ち上げてバックアップ体制を作っていただいています。委員の皆さまとも協力しながら、1 年間、頑張りたいと存じます。

世界の中で著しく低い女性研究者比率を改善するためには、20 歳代後半～30 歳代のライフイベントと研究の両立の困難さの改善が必要です。支援制度の充実とともに、年齢制限のある研究助成制度やポストなどもネックになっていると感じます。期限付きの非正規雇用の拡大は研究継続の改善ではなく、悪化させている問題だと認識しています。さらに、選択的夫婦別姓制度の導入については、国際的活躍が期待される研究者にとって死活問題です。こうした問題を社会に可視化しながら、少しでも改善の方向に向かうように努力したいと思います。皆さま、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

略歴

1961 年、福岡県生まれ。1984 年、九州大学農学部林学科卒業、86 年九州大学大学院農学研究科修士課程林業学専攻修了、89 年同博士課程修了（農学博士）。大分県さきのこと研究指導センター研究員、九州大学農学部助手、助教授を経て、2007 年から現職。2017 年～2022 年九州大学農学部附属演習林長を兼務、現在、林業経済学会会長、日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、NPO 法人九州森林ネットワーク理事長。専門は、森林学会の中で社会科学分野である森林政策学や山村経済学。著書に、『地域の未来・自伐林業で定住化を図る～技術、経営、継承、仕事術を学ぶ旅～』（2020 年、全国林業改良普及協会）、『ほんとうのエコシステムってなに？』（2023 年、編著書、農山漁村文化協会）など。趣味は生け花、山道運転。

ポスター発表参加一覧

加盟学協会（学協会ID順）

002	化学工学会	030	日本地球惑星科学連合
003	高分子学会	032	生態工学会
006	日本化学会	036	日本建築学会
007	日本原子力学会	037	種生物学会
009	日本女性科学者の会	044	日本技術士会
010	日本植物生理学会	045	日本植物学会
011	日本数学会	050	日本中性子学会
013	日本生態学会	059	日本内分泌学会
014	日本生物物理学会	125	日本表面真空学会
018	日本動物学会	135	日本組織細胞化学会
021	日本物理学会	137	応用物理学会
023	日本森林学会	162	日本水産学会
024	地球電磁気・地球惑星圏学会		

ワーキンググループ

女子中高生理系進路選択支援WG

大学等

広島大学

東京女子医科大学

東北大学

シンポジウムの写真 1



幹事学会挨拶 速水 謙 氏
(一般社団法人日本応用数理学会会長)



歓迎の挨拶 中島 康予 氏
(中央大学ダイバーシティセンター所長)



講演 「多様なロールモデルとの出会いが
アンコンシャスバイアスを超える
～男女共同参画学協会連絡会に支えられた
女子中高生夏の学校(夏学)の20年～」
永合 由美子 氏
(NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト
代表理事)



提言・要望書WG 平田 典子 委員長



ホームページ検討WG 裏出 令子 委員長



活動調査報告 神山 雅子 氏

シンポジウムの写真 2



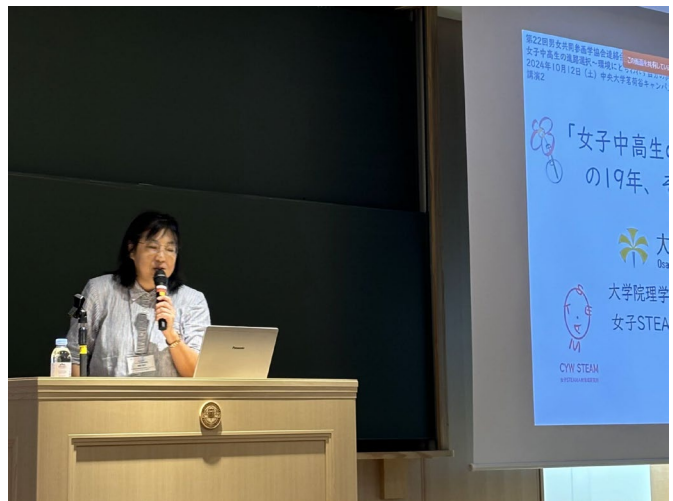
ご来賓挨拶 岡田 恵子 氏
(内閣府男女共同参画局 局長)



ご来賓挨拶 先崎 卓歩 氏
(文部科学省科学技術・学術政策局
科学技術・学術総括官)



講演 1
「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」
寺町 晋哉 氏
(宮崎公立大学 人文学部国際文化学科)



講演 2
「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、
そして最近思うこと」
細越 裕子 氏
(大阪公立大学 大学院理学研究科物理学専攻/
女子STEAM人材育成研究所(CYWSTEAM))

シンポジウムの写真3



講演3
「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：
夏学での経験」
朝井 都 氏
(大阪大学大学院医学系研究科／(株)リコー)



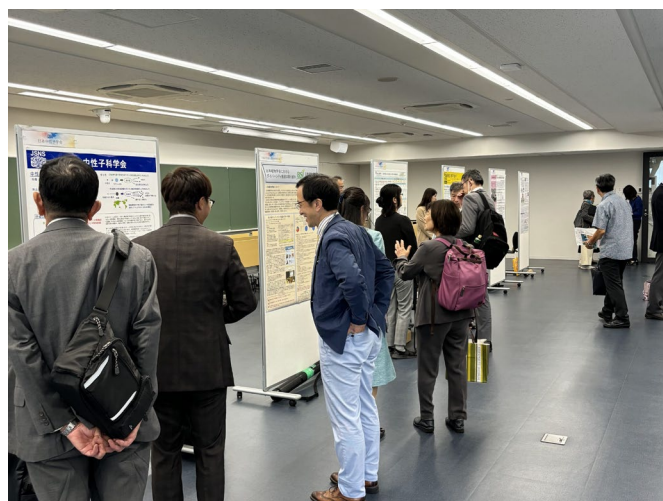
パネルディスカッション



幹事学会からの挨拶
今井 桂子 氏
(一般社団法人 日本応用数理学会)



次期幹事学会からの挨拶
佐藤 宣子 氏
(一般社団法人 日本森林学会)



ポスターセッション

【担当】

第 22 期幹事学会 一般社団法人 日本応用数理学会

委員長 今井 桂子（中央大学 理工学部 教授）
副委員長 佐古 和恵（早稲田大学 理工学術院 教授）
副委員長 中口 悦史（大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター 教授）
委員 石田 祥子（明治大学 理工学部 准教授）
磯島 伸（法政大学 理工学部 教授）
岩崎 悟（大阪大学大学院 情報科学研究科 助教）
陰山 真矢（岡山理科大学 理学部 講師）
神山 雅子（株式会社ブリヂストン デジタルソリューション AI・IoT 企画開発部門）
齊藤 宜一（東京大学大学院 数理科学研究科 教授）
佐々木 多希子（武蔵野大学 工学部 准教授）
花谷 嘉一（株式会社東芝 研究開発センター）
森山 園子（日本大学 文理学部 教授）

第 23 期幹事学会 一般社団法人 日本森林学会

委員長（予定）佐藤宣子（九州大学大学院 農学研究院 教授）

【記録】

午前の部 一般社団法人 日本応用数理学会

石田 祥子（明治大学 理工学部 准教授）
森山 園子（日本大学 文理学部 教授）

午後の部 一般社団法人 日本森林学会

佐藤 宣子（九州大学大学院 農学研究院 教授）
村上 拓彦（新潟大学 農学部 准教授）

第 22 期男女共同参画学協会シンポジウム報告書

2024 年 12 月 7 日発行
一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会
<https://djrenrakukai.org/>

[禁無断転載] 本誌に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 22 期男女共同参画学協会連絡会シンポジウム報告書」から転載または引用した旨をご付記くださるようお願い申し上げます。

第 22 期 男女共同参画学協会連絡会 事務局

JSIAM 一般社団法人 日本応用数理学会
THE JAPAN SOCIETY FOR INDUSTRIAL
AND APPLIED MATHEMATICS